

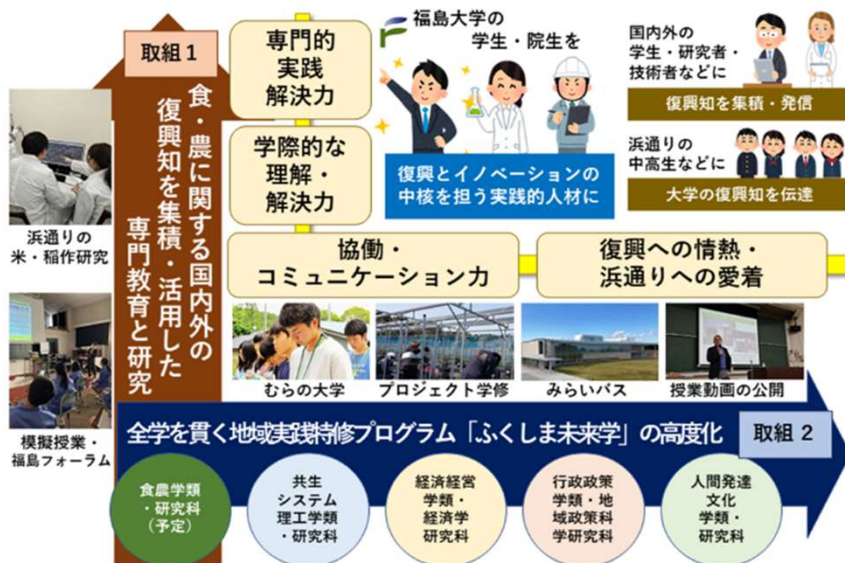
「復興知」の総合化による 食・農・ふくしま未来学の展開

【事業概要・5年間の人材育成目標】

「農林水産」と「地域コミュニティの再生」分野で、浜通り地域の復興とイノベーションの中核を担う実践的な人材を育成する。

取組1 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化



【市町村との連携体制】

浜通り地域4市町村（南相馬市、川内村、大熊町、飯館村）および農業・農学分野における学協会（復興農学会、他）と協働で実施する。

市町村との連携の一例
（左）：大熊町分科会
（右）：南相馬市役所でのヒアリング調査



【2022年度までの取組や活動と2023年度の予定】

取組1 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

「復興知」成果の社会横断的総合化・実装展開

知識・知見・技術等の「横ぐし」をさして、分野間の連携と連動をはかりながら、以下の事業を進める。

- ・「もうかる農業」の確立のための価値共創システムの策定
- ・福島県の発酵食品に生息する乳酸菌に関する研究
- ・根圏土壌におけるCs、Kの挙動把握
- ・除染された農耕地の土壌肥沃度回復と増収技術 他

【2022年度】：すべての事業を、取組2「協働プロジェクト学修」と並行して実施することで、大学・大学院等の教育プログラムの一部として活用。

【2023年度】：各事業の成果を、大学・大学院等の教育プログラム構築の一部として継続的に活用。

「福島大学『復興知』エクステンション」展開

福島フォーラム（福島大学の教職員の研究成果や資源を公開する場）や小中学校などへの出前授業を通じ、浜通り地域や福島県内の学校等に知見を提供する。

【2022年度】：福島フォーラムを7月までに3回実施し、延べ159名の参加を得た。飯館村立希望の里学園における出前授業も実施。9月以降も実施予定。

【2023年度】：福島フォーラム等のコンテンツ拡充を復興農学会などと連携して強化。

取組の一例
（左）：出前授業
（右）：福島フォーラムの案内ポスター



取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

これまでの「ふくしま未来学」の継続に加え、主に以下の取組を通じ、浜通りの地域課題解決やコミュニティの再生、新たな技術の創造等を担う人材育成を図る。

【1年生】「むらの大学」の増強・新フィールドでの実施

1年間を通じて地域に通い、地域課題を発見し解決策を探る。川内村・南相馬市に加え、2021年度より大熊町でも実施。

★受講者数の推移

2021年度：60名 → 2022年度：69名 → 2023年度：80名（目標）

【2年生】「自主学修プログラム」の増強・新フィールドでの実施

「むらの大学」で発見した地域課題解決のため、学生が活動。2022年度（本年度）より、大熊町でも実施。

【3・4年生】「協働プロジェクト学修」の新設

学類を越え、専門性を発揮し地域課題解決。2021年度より新設。

★プロジェクト設定数の推移

2021年度：4件 → 2022年度：8件 → 2023年度：10件（目標）

【全学年】「みらいバス」の強化

全学生を対象にした、浜通り1Dayスタディツアー。2021年度より回数を増やし、年間10回程度実施。



むらの大学
現地フィールド
ワーク（大熊町）



協働プロジェクト学
修・ヒアリング調査
（大熊町）



みらいバス・中間貯蔵
施設から福島第一原発
を望む（大熊町）